

## 第2回 阿賀野市男女共同参画プラン推進協議会 議事要旨

### 1 会議の概要

日 時：令和4年2月25日（金）午後2:00～3:00

場 所：阿賀野市役所別館 3階 303会議室

出席者：【委員】小野会長、井上副会長、伊藤委員、笹川委員、三膳委員、見尾田委員、渡辺委員

【市】事務局：企画財政課（大橋課長、古田島係長、鈴木主任）

### 2 議事概要

- (1) 令和3年度女性財団共催セミナーの実績報告について
- (2) 市内事業所の産休・育休取得状況調査の結果について
- (3) 次期男女共同参画プラン推進協議会委員の選任について

### 3 発言の内容（主な意見等（○：委員 ●：市））

- (1) 令和3年度女性財団共催セミナーの実績報告について

○中小企業に対するハラスメント防止対策の義務が4月から課せられることについて、意識啓発のための広報等を市として行っているのか。

●ハラスメント防止対策の義務化については、労働基準監督署等から企業に対して通知等されているものと認識しており、現在のところ市として広報はしていない。しかし、ご指摘のとおり一般にも広く周知する必要はあると思うので、対応を検討したい。（企画財政課主任）

○市の施設にポスターやリーフレットを設置する等、様々な方法で男女共同参画の周知に努めていただきたい。

○講演会に参加後、社内の幹部会で内容を共有した。普段何気なく使っている言葉がパワハラになってしまうこともあるので、社内に周知し意識改革につなげたいと思っている。受講して良かった。

○今は昔ほどではないが、農家では性別による役割分担意識がまだ残っている。『無意識の意識化』というのは大事である。先日の新聞記事に『男性に対するDV』があった。『女性は弱い立場』という認識が一般的であるが、年間のDV相談のうち約23%が女性から男性に対するものであった。男性側に「男だから相談しにくい」という意識があつたり、女性用の相談先はあるが男性用のものがあまりなかつたりと、気軽に相談できるような状況ではない。性別に関係なく、助けを求められる場所を作っていくなければならない。

- 学校ではT P Oを意識した言葉遣いについて指導しているところである。
- 人とのコミュニケーションは大切であり、その際の相手にあった言葉遣いや相手の心を傷つけない言葉遣いは重要なものである。

#### (2) 市内事業所の産休・育休取得状況調査の結果について

- 建設業では職人が多いため、代替職員はなかなか難しい。男性職員の育休については、それぞれに考えがあり、休暇よりもしっかりと働いて育児の資金を得る方を選択する職員が多い。
- 子どもが生まれる年頃はちょうど働き盛りにあたり、職場でも重要な仕事を任せている場合が多く、本人もそのことに対する責任感を持っている。特に夫婦で同業者の場合は、代替職員が用意できているとしても、両方が育休を取得するという選択は取りづらいのが現状である。
- 以前、男性の市職員が育休を取得していたかと思うが、市役所でどうか。
- 以前、当課の男性職員が1ヶ月育休を取得していたことがある。市でも男性職員に対して育休の取得を進めているところだが、大抵は1週間程度の取得に留まっているようだ。中には、まとまった期間を休む予定でしたが、家族での話し合いの結果、長期には休まないことにした例もあったようである。（企画財政課長）
- 男性が配偶者の出産後に休みやすくなるように4月から法が改正されるようだ。そのため、社内では出産を控えた女性職員に対してリーフレット等を渡し、配偶者の育休取得の検討を促す案内をしている。
- 男性が育休を取得する際のフォローアップ体制や休みやすい雰囲気が確立するまでは難しいかもしれないが、ある程度浸透すると取得者が増えるのではないか。
- 身近な例では、息子に子が生れた際、仕事を休むことはしなかったが家事や育児を積極的に行っていた。育休を取得することがすべてではなく、それぞれの考え方を尊重することも大切である。

#### (3) 次期男女共同参画プラン推進協議会委員の選任について → 報告について、質疑なく終了した。

#### (4) その他

- 性別に関係なく、すべての人が分かり合い、助け合っていく社会にしていくためには、

次代を担う子どもたちへの教育がもっとも重要なことである。

○いじめ等様々な問題や事件が起きている。そういった問題を少なくしていくためには、家庭の中で愛情深く子どもを育てることが大事である。

○「男女共同参画」というと堅い感じがするが、結局は相手を思いやる気持ちというもののが一番大切である。

○農業委員会では家族労働が主である農家に対して「家族労働協定」を推進している。

「家族労働協定」は会社でいう就業規則にあたる。給料や休日等の取り扱いを明確にすることで、待遇を改善するだけでなく、補助金等有利な支援を受けられるようになるものである。ＩＣＴ技術なども活用し、これからも阿賀野市の農業を発展させていきたいと考えている。

○「男女共同参画」とは、お互いに理解し合うことや認め合うことが重要である。そのためには、学校・家庭・社会等あらゆる場面での教育が不可欠であり、問題が起きた時こそチャンスである。また、このコロナ禍では就労や教育等でリモートが進んだ。将来的には阿賀野市にいながら様々なことができ、人口流出を止めることにつなげられるのではないかと期待している。